

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	府中市美好町 3 - 2 3 - 2
園名	府中市立西保育所

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜

<テーマの設定理由>

広い園庭を活かし、畑やプランターで毎年野菜を育て、収穫して食べる活動を継続して行ってきた。昨年は猛暑の影響で野菜の育ちが悪く、「なぜ枯れたのか」、「どうしたら育つのか」といった疑問を持つ姿が見られた。また、収穫を楽しみにする中で、野菜の生長や花・実・種の様子、味や食感など、様々なことに興味をもっていったため。

2. 活動スケジュール

- ・4月下旬 苗を観察し、野菜の種類や育ち方を図鑑で調べる
- ・5月 土づくり、苗植え、栽培、観察を開始
- ・6月～ 収穫した野菜を観察し、給食で味わう
- ・随時 電子顕微鏡による観察、観察画、虫の観察や飼育、野菜スタンプ制作を行う
収穫した野菜を味わい、味や食感の違いを感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・子どもたちが日常的に観察できるよう、プランターはクラス前のテラスに設置した。
- ・土、苗、じょうろ、霧吹きなど、栽培に必要な用具を準備した。
- ・興味や関心を深められるよう、図鑑や絵本、電子顕微鏡を用意した。
- ・野菜の観察をきっかけに虫への興味が広がったため、飼育ケースを設置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・届いた複数の苗を並べ、図鑑を見ながら野菜の種類や育ち方を調べた。
- ・4歳児は全員で、5歳児はグループごとに土づくりを行い、野菜の栽培を始めた。水やり当番を決め、継続して世話をを行った。
- ・花や実の観察を行い、5歳児は観察したことをポスターにまとめた。
- ・電子顕微鏡を使って葉や実、種を観察した。また、5歳児は、野菜に付いていた虫を観察する姿も見られた。
- ・収穫した野菜を給食室へ届けて調理してもらい、給食で味わった。また、栄養士が目の前で調理する様子を見学した。野菜を味わう機会を設け、4歳児は味比べも行った。
- ・野菜スタンプ遊びを行った。
- ・活動の様子を写真でまとめて廊下に掲示し、他クラスや保護者と共有した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・野菜を継続して観察する中で、「昨日より大きくなっている」、「花が咲いた」など、生長に気づく姿が見られた。保育者はすぐに答えを伝えるのではなく、子ども自身が発見することを大切にしながら見守った。一人の発見を友だちに伝えることから輪が広がり、観察したことを共有しながら楽しんでた。
- ・電子顕微鏡での観察では、「こんなふうになっているんだ」と新たな発見に驚いたり、不思議に思ったりする姿が見られた。
- ・収穫した野菜を栄養士が目の前で調理し、一緒に味わう機会を設けたことで、「苦い」、「おいしい」など、味の違いを感じたり伝え合ったりしながら、味付けや食べ方への関心が広がった。また、自分たちで育てた野菜への親しみから、「食べてみる」と意欲的な姿も見られた。
- ・活動の様子を写真でまとめて廊下に掲示し、保護者と共有した。保護者から活動について声を掛けられると、子どもたちは嬉しそうに野菜の生長や収穫の様子を伝え、自分たちの経験を振り返ったり、伝えたりする姿が見られた。



＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・野菜栽培や観察、収穫、試食といった一連の体験を通して、子どもたちは野菜の生長だけでなく、花や実、種の様子、味や食感など、様々なことに興味を広げることができた。特に、身近に観察できる環境や電子顕微鏡などの道具を活用したことで、子どもたちの「見てみたい」、「知りたい」という気持ちを引き出すことにつながった。
- ・今年は収穫が何度も続いたことで、子どもたちの興味や関心が一時的に薄れる場面も見られた。その際、栄養士による調理の実演や味比べ、目の前で切った野菜を使ったスタンプ遊びなど、活動に変化を加えることで、再び興味が高まる姿が見られた。子どもの「もっと知りたい」、「やってみたい」という気持ちを継続できるよう、活動の展開や環境の工夫が重要であることに気づいた。
- ・保育者も、一つの活動から興味や関心が広がっていく過程を支えることの大切さを改めて感じた。今回の経験は、小学校で始まる生活科につながる学びの基礎にもなったと考える。
- ・今後も子どもたちの気づきや発見を大切にしながら、主体的な探究活動につながる環境づくりを行っていきたい。